

No_04

Example Report.

Builder:
Mstyle house(松代建設工業)

Note:
南牧村/ワインサロン

森に包まれて ワインを愉しむ空間



A_あえて高低差を生かした、存在感のある外観。高基礎の上にストーンデッキを設けてリビングを一層開放的に。 B_フランスで買い付けたぶどうモチーフの雑貨。鉄製面格子、取っ手とともにドアアクセサリーとして活用。 C_玄関を開けるとホール正面の窓越しに森が広がる。 D_森に包まれる感覚のストーンデッキ。

この地と出合った時から思い描いていた「いながらに森に包まれる空間」をかなえるパートナーとして探し当てたのが、耐震構法・SE構法を手がけるエムスタイルハウスでした。実際に軽井沢の森の中に建設されたお宅にも赴き、技術だけでなくコンセプトやデザインにも共感。仕事に合わせて東京・長野間を車で往復、フランス滞在中はインターネットのビデオチャットで打ち合わせを重ねます。並行して東京やフランスで気に入った建具やインテリアを買い付け。理想の実現に向けて遠隔ながら緊密なチームプロジェクトが進んでいきました。

圧倒的な
大開口が叶えた
“いながらに森の中”

八ヶ岳山麓の森の中で、壁面積の大半を占める窓が存在感を放つ佇まい。「八ヶ岳ワインサロン」と名付けられたこの建物は、その



建物の構造は平屋ですが、2mあまりの敷地高低差を高基礎で支え、さらに天井高3m50cmを超えるリビングを設けて2階建てのような外観を構成しています。

リビングの三方には床から梁まで、さらに梁上から天井までの大窓が広がり、森の四季を映し出します。野鳥のさえずりも絶え間なく降り注ぎ、そこに佇むだけで、まさに森に包まれているような心地よさ。視線を遮る柱がないことも、大空間を一層ゆったりと感じさせます。

耐震構法・SE構法ゆえの、この大胆な設計に加え、真冬の最低気温が連日マイナス10℃を下回るこの地で快適に過ごせる断熱性能、積雪荷重や防犯対策、思いがけない鹿の衝突への対策など、幾多の条件をクリアした上での大開口。Iさんの理想の実現は、開口部を小さくして断熱性や剛性を保つ、という別荘地における従来の建築の常識を変えたといっても過言でないかもしれません。

高基礎は、床下に広いワイン

森に包まれて
日常から隔絶される
至福の時

セラールを設けるのにも大いに役立ちました。リビングからの階段と外からも荷を出し入れできる扉により、効率的な動線を確保。森の静けさと冬の雪、そして真夏でも冷涼な高原の気候がワインの保管にも一役買ってくれます。別荘兼ビジネスオフィス兼ワインサロンとして、八ヶ岳山麓の森に新たな人の流れを生み出すことを予感させる存在です。



G_リビングの一角にスタンドアップテーブルを造作。今は絵を飾っているが、パソコン作業も可能。H_ホール壁の間接照明もインテリアの一環として配している。I_リビング天井にはヨーロッパ感覚のシーリングライトを設置。J_パーチカルブラインドを配し、リビングをシャープな印象に。

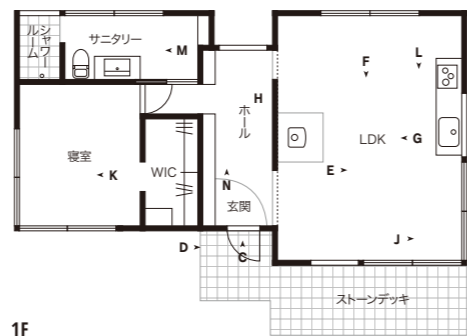


E_三方に大窓を配置したゆとりの大空間。中柱を設けず、デザインのように見せた二重梁で構造強度を確保した。F_キッチン前にフィックスの大窓を配置。自然石を積み重ねた壁面と薪ストーブがリビングの雰囲気スタイリッシュに演出。



P_上空から望む1邸。冬季の積雪に配慮した勾配のある寄棟屋根。
Q_周囲は野生の鹿が闊歩する自然の森。

PLAN

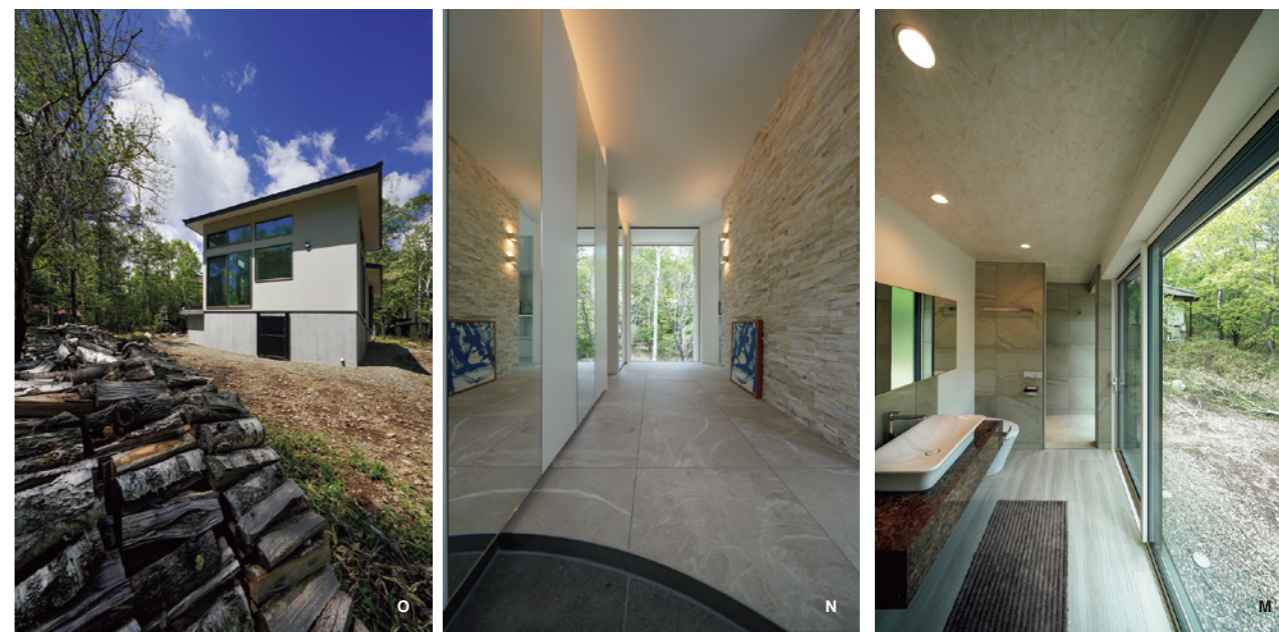


DATA

敷地面積 — 1000.38㎡ (302.01坪)
延床面積 — 70.33㎡ (21.23坪)
1F面積 — 70.33㎡ (21.23坪)
デッキ面積 — 9.00㎡ (2.72坪)

工法/耐震構法SE構法 基礎/ベタ基礎 構造材/柱・梁: 欧州アカマツ、土台: ヒノキ 断熱材/屋根: MOCOフォーム255mm、壁: 充填断熱アクリアマット+外断熱キューワンボード61mm、基礎: スタイロフォーム150mm
主な外装仕上げ/屋根: ガルバリウム鋼板、外壁: ジョリパット吹き付け
主な内装仕上げ/天井・壁: ビニールクロス、床: 複合フローリング 開口部/Low-Eトリプルガラス(アルゴンガス入り) キッチン/LIXILノクト
キッチン熱源/IHクッキングヒーター バスルーム/シャワールーム(製作)
暖房の種類/床暖房・薪ストーブ

K_寝室にもあえて大きな窓を配し、室内に自然を取り込んでいる。 L_リビング・ダイニングから床下ワインセラーへアクセスできる。 M_サニタリーはランドリー、手洗い、トイレ、シャワーを一例に配して欧米の家庭風に。サニタリールームの窓のみ、鹿の衝突を避けるセキュリティシャッターを設置。 N_左手壁内に収納スペースを設けた玄関ホール。正面窓の先にシンボルツリーのシラカバを望む。 O_造成時に伐採した木はストーブの薪として備蓄。高基礎にワインセラー入り口を設けた。鉄製扉はフランスで買い付け、輸送したもの。



Owner:
Iさん

Q1. 家づくりで一番大切にされたことは?

A 自然の光をできるだけ取り入れ、室内にいながら森の中にいる感覚を味わいたかった。そのため物理的にも予算的にも可能な限り窓を設けた。

Q2. こうしておいてよかった、と思ったことは?

A たくさんの大きな窓、床暖房、薪ストーブ。この家に必要であり、欲しかったものを妥協なく入れることができた。

Q3. このビルダーさんに頼んでよかったことは?

A 何回も辛抱強く打ち合わせしていただいたこと。自分のイメージどおり言葉にできなかった要望も、感覚として汲み取ってもらえた。

Builder:

設計担当/酒井 良子さん



Q1. この家のコンセプト、ポイントは?

A 周りの木々や自然の色、光を家の中に取り込んだ、八ヶ岳の大自然に溶け込む空間。

Q2. この家の見どころを3つに絞るなら。

A 敷地の高低差を利用した空間活用と、緑になじむホワイトで統一した内外観、可能な限り広く大きくたくさん配置した開口部。

Q3. 家づくりで一番大切にしていることは?

A オーナー様と信頼関係を築き、思いをかたちにするに留まらず、期待以上の空間や感動を提供すること。